

防災集団移転先では住民による町内会設立・編入が進んでいます

市内13カ所の防災集団移転先では、新たな町内会設立や近隣町内会への編入など、住民自らが地域づくりを進めています。

3月に宅地造成が完了した宮城野区の田子西隣接地区では、住宅の建築・移転が本格化するに伴い、7月に町内会の設立準備会が発足。新たにこの地区の住民となる方々の代表が委員となり、準備を進めています。



田子西隣接地区 町内会設立準備会委員 佐藤修一さん

現在、仙台港背後地6号公園仮設住宅の自治会長を務める佐藤さんに話を伺いました。「仮設住宅では集会所を一日中開放し、住民がいつでも集まることができる場所をつくりました。コミュニティづくりでは、人と人が会うこと、顔を合わせることが大切。移転先にはさまざまな地域の方が移り住むので、まず

は早く皆さんの顔を覚え、集会所ができたならみんなで顔を合わせるといいイベントを開催したいですね」



常盤木学園高等学校フラ同好会による歓迎パーティー

新たな住まいでの コミュニティ を支える人々

震災から4年半が経過し、復興公営住宅への入居や防災集団移転など、被災された方々の生活再建が進んでいます。これらの地域では、移り住んできた方

が地域になじんで暮らせるよう、近隣町内会や団体、NPOなどさまざまな方がコミュニティづくりを支援しているほか、町内会設立の動きも進んでいます。

復興公営住宅を支援する会が入居者の交流を支援

市内各地の復興公営住宅では、近隣町内会や地区の社会福祉協議会・民生委員児童委員、区役所などが連携して支援する会を立ち上げ、イベントなどを通して、入居者同士の交流を支援しています。

太白区の「あすと長町第二復興公営住宅支援者連絡会」では、七夕飾り作りなど季節に合わせたイベントを行い、入居者同士の交流の場をつくっています。



**あすと長町第二復興公営住宅支援者連絡会
副会長 大友まり子さん**

「入居者の様子を見ていると、ごみの出し方や自転車の置き場など生活上の問題があっても、どんな人が住んでいるか分からず話づらいという雰囲気がありました。しかし、交流会などで作業をしながらおしゃべりするうちに、皆さんも打ち解けてきたように感じます。いずれは住民自

身でコミュニティを運営できるよう、今後もサポートしていきます」



▲長町第二地区民生委員児童委員協議会の会長を務める大友さん

常盤木学園高等学校

青葉区の常盤木学園高等学校では、フラ同好会の部員たちが小田原復興公営住宅の入居者を招いての歓迎パーティーを企画・実施しました。

部員たちによるフラダンスが披露されたほか、オカリナの演奏や茶話会が行われ、新たに地域の仲間入りをした住民の皆さんは和やかな時間を楽しみました。



▲入居者の皆さんと部員と一緒にうちわを作りました

地域のコミュニティづくりに関するお問い合わせは区役所まちづくり推進課（☎は8ページ）、防災集団移転に関するお問い合わせは復興事業局事業計画課☎214・8475

NPO法人20世紀アーカイブ仙台

☎387・0656、ホームページ<http://20thcas.or.jp/>

NPO法人20世紀アーカイブ仙台は、懐かしい写真や映像を保存し伝えていく活動を通して、仮設住宅や復興公営住宅で暮らす方々のコミュニティづくりを支援しています。

若林区の荒井東復興公営住宅では、「なつかしい宮城 昔を語る楽しむ茶会」と題して、宮城の懐かしい映像の上映会を開催。入居者同士がそれぞれの思い出に花を咲かせるだんらんの間となっています。



▲昔の写真が映し出されるたびに、当時の思い出話が出てきます



▶上映会の後は、昭和の歌謡曲を歌って楽しみました

市民センター

地域の方々や団体が、活動を通して交流を深める拠点となっている市民センター。復興公営住宅のある地区の市民センターでは、入居者が新しい環境になじめるようサロンやイベントの企画、住民への情報提供などを行っています。

7月には、若林市民センターが近隣の町内会や小学校、PTAなどと連携し、若林小学校で「防災・減災」をテーマにした交流会を開催。昨年10月に発足した若林西復興公営住宅の町内会「若林西せせらぎ会」の方も参加し、幅広い世代の方々が交流を深めました。



▲児童や地域の方およそ100人が参加

公益財団法人音楽の力による復興センター・東北

☎797・0233、ホームページ<http://ongaku-fukko-tohoku.jp/>

震災から2週間後に、仙台フィルハーモニー管弦楽団と市民有志により設立された「音楽の力による復興センター」。被災された方々が音楽を通して少しでも元気になれるよう、各地で復興コンサートなどの活動を行っています。

宮城野区の田子西復興公営住宅では、音楽を聴いてもらうだけでなく、入居者の皆さんもともに歌って楽しむ「うたカフェ」を毎月開催し、生き生きとした時間を過ごしています。



▲仙台オペラ協会会員と一緒に、元気に歌声を響かせます

「みんなで楽しい時間を過ごすことが、次への頑張りや希望につながっていくと思います。『うたカフェ』のような『部活』をきっかけに、被災された方自身が自主的に活動していけるようになればいいですね。今後は支援する側・される側という区切りを設ける

のではなく、お互いに協力して豊かな時間をつくっていきましょう」



▲センター事務局の伊藤み弥さん（右）と千田祥子さん